

環境と平和・海から見た地球 ～ 気候正義と核廃絶平和運動 ～

30数年、プロダイバーとして、海と向き合ってきましたが、海洋環境の劇的な変容は留まる事はありません。水中世界を中心に、環太平洋沿岸の海を見てきましたが、太平洋の真ん中辺りの状況はどうなっているのだろうか？と考え、6年前から自ら操船したヨットで探査・国際交流などを目的に航海を始めました。

ヨットでの航海は「気候変動」による海・空・風の変化がただならないことを私に伝えてくれました。

そしてプラスチックのゴミだらけの海！正に太平洋はゴミだらけ！でした。

航海距離は6年間で29,000キロ、航海日数は延べ270日間。

これらの報告等に加え、40年間撮影した水中映像等と共に、一人一人が何をしたらよいのか？という事を考えたいと思います。そして、核廃絶、平和への願いと気候危機へ立ち向かう運動とは同じであるという認識のもと、連帯への道筋を探りたいと思います。

自分の目を見てきたこと、体験した事を伝え、知ってもらう事が自分の使命であると認識しています。

何より「知る事が希望」なのです。



環境活動家 武本匡弘の水中映像などを中心とした気候危機・生物多様性等に関する情報提供FB [→](#)
(インスタもあります。)



NPO法人気候危機対策ネットワークHP



日本で最初のプラスチックフリーストア
ゼロウェイスト・共同運営を目指す
エコストアパラギ HP [→](#)



1、海から見た地球「気候変動・気候危機・気候正義」

①気候変動

- ・地球規模でのサンゴの白化現象
- ・生物多様性の喪失・国内にも広がる「磯焼け」現象

②気候危機

- ・「風が変わった！」太平洋の島々で命と生活を脅かすもの
- ・地球規模での危機的な状況、もちろん日本の海も

③気候正義

- ・Co2 排出国と、その犠牲となっている国々への不正義
- ・国家間の不正義・世代間の不正義

2、海から見た地球「プラスチックスープの海」

①太平洋の島々、どこへ行っても浜はプラスチックだらけ

②プラスチック問題と気候変動は同じ問題

3. 戦争と環境破壊

①戦争だけでなく、その準備から戦後処理に至るまでの全てが、環境破壊の連続であり、地球を壊し続ける。

②何より一瞬にして人の命と地球環境を破壊するのは核兵器

③若者の目の前から未来を奪う核兵器と気候危機

④無意識に加担している戦争と環境破壊

⑤戦争も気候危機もエネルギー問題だ！

⑥パリ協定と COP、憲法9条と核兵器禁止条約

⑦SDGs と日本国憲法

⑧今こそ平和運動と環境運動との世代を超えた連帯を！

- 1985年 ダイビング会社設立
- 1999年 NPO パパラギ海と自然の教室設立
- 2001年 NPO ジェーン グドール JAPAN 設立
- 2009年 上関原発建設予定地～祝島海域にて潜水調査及び記録撮影開始。
- 2014年 ダイビング会社(社員 60 名)を後継者に譲渡。「環境活動家」としての活動を開始。ビキニふくしまプロジェクトでの活動を開始。
- 2019年 藤沢市に(一社)プラスチックフリー普及協会「エコストア パパラギ」を開設
- 2020年 NPO法人気候危機対策ネットワーク設立

武本 匡弘 プロダイバー・環境活動家

NPO法人 気候危機対策ネットワーク 代表理事

日本サンゴ礁学会会員

(財)第五福竜丸平和協会 協力会員

ご質問などは、こちらまで

kikoukiki@eco-papa.com

